

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 15 日現在

機関番号：33104

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520257

研究課題名（和文）

第一次～第二次世界大戦下、イギリスの大衆文学に見る女性の市民意識とキャリアの表象

研究課題名（英文）

An Analysis on the Representation of the Women, their Citizenship and Career during the World War I-II

研究代表者 杉村 使乃（SUGIMURA SHINO）

敬和学園大学・人文学部・准教授

研究者番号：20329337

研究成果の概要（和文）

第一次世界大戦～第二次世界大戦下のイギリスで出版された若い女性向け雑誌で連載された大衆文学を精読し、そこに表れる女性の表象、特に「市民意識」、「キャリア」に関する関心がどのように表れているのかについて考察した。戦時中に重要な労働力となった女性たちの実態を踏まえ、働く女性たちがどのような「物語」を消費し、自分たちのあるべき姿を模索していったのか。そこでは「市民意識」、「キャリア」への関心はどのように表象されたのか。具体的な作品を発掘し、精読しながら、分析を進めた。

研究成果の概要（英文）：

This research is focusing on the analysis of the representation of the women in Britain during the World War I and II. Searching for and reading some specific works of those times, how the women were, or were supposed to be conscious of or related to the citizenship and the career has been mainly researched. During the two world-wide wars, not only men but also women and their manpower became very important and were expected to show their citizenship more than ever. This research will show how the women's changing roles were described and represented in the novels, serials, or short stories in the popular magazines.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 20 年度	800,000	240,000	1,040,000
平成 21 年度	500,000	150,000	650,000
平成 22 年度	500,000	150,000	650,000
平成 23 年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：英文学、戦争、女性、ジェンダー、市民、キャリア

1. 研究開始当初の背景

この研究は主に (1)戦争と文学、(2)イギリスのジェンダー史、(3)文学とジェンダー、以上三つの研究テーマに関連づけられる。

(1)戦争と文学については、第一次世界大戦に比べ、第二次世界大戦への文学的反応は、対独宣戦前のスペイン内乱期間中よりも、「賛美」であれ、「批判」であれ、扱われる作品が多いとは言えなかったのではないだろうか。また文学史上に取り上げられる作品は、戦争への「批判」、または「喪失感」が強調されてきたように思われる。昨今では日本英文学会その他の研究会で戦間期、また50年代までの文学と文化を取り上げる研究が盛んだが、本研究は第一次世界大戦から第二次世界大戦までの期間における女性向け大衆小説を扱い、戦時下の文学・文化研究に関連付けられる。

(2)については、この研究でターゲットとする時期のイギリスのジェンダー史において、これまで多いに注目されてきた事項は女性たちの参政権獲得であろう。「サフラジェット」(Suffragette)と呼ばれた女性たちの過激な参政権獲得運動が注目されてきた。第一次世界大戦時における女性たちの戦時貢献と参政権獲得は深く関連していると考えられる。

第二次世界大戦下では、対独戦争でイギリスはアメリカの参戦までかなりの苦戦を強いられ、若い世代の男性たちの多くが戦場に赴いた。すでに第一次世界大戦時より、大きな割合を占めていた女性の工場労働力がさらに重要性を増し、制服を身につけた190,000人以上の女性が後方支援として軍事に関わる。そして1941年 The National Service Act は「女性の徴兵」を法案として可能にした。女性たちは「市民」(citizen)

として行動することを期待され、男性たちの多くが戦場に赴く戦時下においては「ホームフロント」を守る女性たちの記録が多く残されている。こうした女性の実態に関する研究は Juliet Gardiner を始めとする研究者によりイギリスを中心に進められている。

こうした歴史的事実、女性の戦時活動の実態に関する研究を踏まえ、本研究では、女性雑誌という大衆メディアをテキストとし、メディアで描かれる女性像、そして読者としての女性たちがどのような「物語」を消費し、自分たちのあるべき姿を模索していったのかを考察する。

(3)文学とジェンダーについては、文壇における女性作家の位置づけを見直し、また文学史で扱われる作品や作家だけでなく、消えていった女性作家の作品を新たに発掘・精読し、女性の視点で見た文学史の編み直しは Ellen Moers や Elaine Showalter による研究などを通して進められてきた。

また、ヴィクトリア朝における「家庭の天使」、世紀末の「新しい女」、そして前述のサフラジェットなど、各時代のジェンダー秩序を反映した女性表象については、すでに多くの研究成果が出されている。

本研究では、第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけて、「市民」としての女性が戦時下においてどのような役割を担ったのか、またどのように表象されたのか、雑誌などの大衆メディアを通して考える。更に若い女性たちを読者対象としていた雑誌における小説を取り上げ、どのような物語によって、戦時下における女性、また彼女たちの「市民意識」、「キャリア」への関心が描かれていたかを考察する。文学において、女性たちの「市民意識」、戦時活動への貢献、そして「キャリア」への意識がどのように表れているかを分析し、ジェンダー史と文学研究を関連付け

る。

2. 研究の目的

第一次世界大戦～第二次世界大戦下のイギリスで出版された若い女性向け雑誌で連載された大衆文学を精読し、そこに表れる女性の表象、特に「市民意識」、「キャリア」に関する関心がどのように表れているのかについて考察する。戦時中に重要な労働力となった女性たちの実態を踏まえ、働く女性たちがどのような「物語」を消費し、自分たちのあるべき姿を模索していったのか。そこでは「市民意識」、「キャリア」への関心はどのように表象されたのか。具体的な作品を発掘し、精読・分析を進める。またこの分析によって、第一次世界大戦～第二次世界大戦時において、女性の表象やジェンダー観がどのように変遷したのかを明らかにする。

19世紀後半のイギリスにおける帝国主義と文学、あるいは文化表象に関する研究については近年多くの研究成果が発表されている。ここでは、第二次世界大戦下の文学、文化表象に関して、戦争への「批判」、「平和主義」的な面だけではなく、「戦争」への「賛美」、「愛国主義」も含め、より多角的にテキストを収集、精読し、より広い視野で文学とその歴史を考える。

また文学史で頻繁に扱われる作品や作家だけでなく、大衆文学として雑誌に掲載され、そして消えていった作品を新たに発掘、精読する。本研究では主に若い女性たちを読者対象としていた雑誌における小説を取り上げ、どのような物語によって、戦時下における女性、また彼女たちの「市民意識」、「キャリア」への関心が描かれていたかを考察する点が特徴的である。

3. 研究の方法

第一次世界大戦時～第二次世界大戦時の

若い女性向けの雑誌の中から主要なものを選び、作品の一覧を作成し、テーマの傾向を外観する。その中から、特に「市民意識」、「キャリア」を意識したものを抽出し、精読、分析する。雑誌は、第一次世界大戦前から多くの読者を集めていた *Girl's Own Paper*、1931年出版の *Women's Own*、そして1937年出版の *Woman* を扱った。また当時の女性のキャリア、戦時活動についての実態を知るため関連資料、写真週刊誌 *Picture Post: Hulton's National Weekly* の該当する期間に関して閲覧、分析した。

以上の資料については、主に敬和学園大学、梅花女子大学、中央大学、イギリス、ロンドンのブリティッシュ・ライブラリー(セント・パンクラス、コリンデール)、帝国戦争博物館(Imperial War Museum)に閲覧し、必要な箇所は複写、またパソコン入力を行った。ロンドンにて、国内では閲覧不可能な1939年～1946年における若い女性をターゲットにした雑誌 *Girl's Own Paper*、1931年出版の *Women's Own*、そして1937年出版の *Woman* に関して、資料収集をすすめた。第二次世界大戦下、女性の戦時活動や、キャリア意識を分析するための貴重な資料を収集・精読し、年代ごとに整理し、分析を行った。

4. 研究成果

H20～22年度において、上記の女性向け雑誌の閲覧、収集を行った。特に *Girl's Own Paper*(以下 GOP)についてはまとまった資料収集を行うことができた。また当時の女性たちがジャーナリズムでどのように表象されていたのかを考えるため、写真週刊誌 *Picture Post: Hulton's National Weekly* の該当する期間に関して閲覧、分析し、研究成果を発表した。

(1) GOPに見る女性像

イギリスの近代における帝国拡大の背後

に多くの女性たちの支持と支援があったことが、いまや明らかになっている。また、文学や様々な記述が男性だけでなく、女性をも「適切な国民」として教育するために大きな役割を果たしてきた。戦時下においては、兵士を生む「母」、「家庭」を守る役割が強調されてきた。更に第一次世界大戦以降のイギリスでは、機械工業や軍隊の後方支援にも女性の労働力が大いに必要とされた。参政権の獲得により女性の「市民」としての在り方が模索され、雑誌にも関連する記事やフィクションの掲載が見られた。

1880年創刊の若い女性向け雑誌、GOPとは、当時の社会が女性たちに求めるもの、また女性たちのニーズを知る上で示唆的な資料である。イギリス文学・文化研究において、一次資料としてGOPを扱ったものはすでに存在している。1880年～1884年発行分についてはすでに2006年に復刻版が出版されている。しかし、それ以後の時期における研究について、また戦時下のメディアとしてのGOPに関する研究はまだ発展の余地がある。

GOPを所蔵するほとんどの図書館はAnnualと呼ばれる1年間分をまとめた版（広告を除く）を所蔵しており、この研究でも主にこの版を使用した。

創刊から1907年まで編集長を務めたチャールズ・ピーターズは、「イギリスの少女と女性たちの最も高貴な部分を育み、発達させる」という道徳性を重視した編集方針を打ち立てていた。その根幹にあったものは、キリスト教精神に基づいた「良妻賢母教育」である。しかしながら、読者層は年齢的にも社会階層的にも多岐に渡っていたため、「家庭」が強調される一方、職業選択、大学案内、スポーツ、娯楽に関する記事やフィクション（短編、連載）なども同時に提供されていた。フローラ・クリックマンが編集長になった

1907年以後は、雑誌のタイトルは *The Girl's Own Paper* から、*The Girl's Own Paper and Woman's Magazine* と変わり、10代後半から20代前半にまで渡る若い女性という読者層を反映している。1918年、第4回選挙法改正で30歳以上の婦人に選挙権が与えられ、若い女性たちは徐々にではあるが社会における自分たちの領域を広げつつあった。こうした状況を反映して女性の仕事と賃金に関する記事、読者からの質問が掲載されている。

(2) 第二次世界大戦とGOPに見る女性の戦時活動

第二次世界大戦では、戦場へ送られた男性たちの代わりに女性たちが、社会活動の様々な場面で活躍し、軍隊の後方支援にも携わった。これらはGOPの連載小説にも反映されている。1940年～1941年には、戦争の影響が特に顕著に表れた。表紙にはそれまで季節感やファッションを表す若い女性たちが描かれていた。しかしこの頃は制服を身に着けた戦時活動の女性が現れ、記事でも紹介されており、女性の労働力の必要性の高まりと、リクルートの意味合いが感じられる。62巻（1940年10月～1941年9月）の表紙には、赤十字の看護、WAAF (Women's Auxiliary Air Force 空軍補助、1939年再編)、WRNS (Women's Royal Naval Service 海軍補助、1939年再編)、ATS (The Auxiliary Territorial Service 主に陸軍補助、1938年再編)、AFS (絵) (Auxiliary Fire Service 消防の補助 1938年～)、Land Army (農業支援)、VAD (Voluntary Aid Detachment、1909年設立、主に看護)、Voluntary Workers of Britain (WVS: Women's Voluntary Service 1938年活動開始。集団疎開 [Evacuation]、空襲警戒 [ARP: Air Raid Precautions]、ARPに

貢献) が表れる。

1938 年以降、GOP 掲載の小説のジャンルは冒険もの、ミステリー、学園ものの 3 つに集約され、家庭を前提とした女性の役割というよりも、友情やチームワークが主なテーマとなっている。フィクションの中にも、戦時活動に携わる女性たちが現れる。活動に前向きで、そこで自分の力を発揮したいと願う女性登場人物の姿が描かれていた。

フィクションの設定として使われた空襲、灯火管制の中の暮らし、スパイ活動は読者の目にリアルに映ったであろう。多くの子供たちや学校が都市部から疎開したことを反映してか、ロンドン以外のカントリーを舞台としたものが多い。ゴシック小説の流れを受け、古いカントリー・ハウスを舞台にしたミステリー、冒険ものはこれまでも登場していたが、そのプロットとしてナチス・ドイツのスパイ活動が描かれる。

第二次世界大戦下の戦時活動に従事した女性たちは、「国家」のあり方と女性の役割という問題点を含む女性像の一つとして考えられる。そこには既存の女性像への抵抗が描かれると同時に、一方では国家による「国民」としての懐柔も描かれる。GOP 掲載の小説は女性像の変遷、戦争に対する文学的反応の一面を浮かび上がらせている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

① 杉村使乃、 『『ガールズ・オウン・ペーパー』に見る第二次世界大戦下のイギリス女性像』、『敬和学園大学研究紀要』、査読有、2012、pp. 185-199

② 杉村使乃、 「イギリス 写真週刊誌『ピクチャー・ポスト』が見たニッポン」、 『敬和

学園大学人文社会科学研究所年報』、査読有、10 号、2012、pp. 35-45

③ 杉村使乃、 『『ガールズ・オウン・ペーパー』に見る第二次世界大戦下のイギリス女性像』、『日本英文学会 第 82 回大会 Proceedings』、査読無、2010、pp. 95-97

④ 杉村使乃、 「写真週刊誌『ピクチャー・ポスト』に見る第二次世界大戦のイギリス女性表象再考：制服の女性たちを中心に」、 『敬和学園大学人文社会科学研究所年報』、査読有、8 号、2010、pp. 57-75

⑤ 杉村使乃、 「写真週刊誌『ピクチャー・ポスト』における「味方」と「敵」—英独の「空襲」の表象—」、 『敬和学園大学人文社会科学研究所年報』、査読有、7 号、2009、pp. 83-113

[学会発表] (計 1 件)

① 杉村使乃、『『ガールズ・オウン・ペーパー』に見る第二次世界大戦下のイギリス女性像』日本英文学会第 82 回大会、2010 年 5 月 20 日、於 神戸大学

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉村 使乃 (SUGIMURA SHINO)
敬和学園大学・人文学部・准教授
研究者番号：20329337